

期成会の活動（管外視察研修）

【令和6年度】

- 1 期 日 令和6年7月16日（火）～17日（水）
- 2 用務先 津別町（津別地区）、東川町（株式会社東川農業振興公社）
- 3 用 務 ニセコ町国営農地再編整備事業促進期成会先進地現地視察研修
- 4 参加者 期成会員 9名

1) 国営農地再編整備事業「津別地区」

- ・受益面積 2,433 h a
- ・受益戸数 120 戸
- ・事業工期 平成27年度～令和6年度予定

◇地区の現状

- ・主要作物は小麦・てんさい・馬鈴薯・豆類等となっている。事業に取り組んだ背景として、131戸（H27年）の個人経営農家戸数が、20年間で45戸（R17年）に減少するという農業センサスからの予測等から、大型機械による効率的な農作業の実現等を図るため国営事業を実施しているとのことでした。事業の結果、機械作業時間の短縮や収量増加がうかがえました。

◇スマート農業の展開と情報通信環境整備対策について

- ・JAつべつ職員（営農部営農課 MRマネージャー 有岡敏也 氏）から資料に沿って、スマート農業（研究会の立ち上げ・情報通信環境の整備によるドローン活用や鳥獣被害対策、スマートトラクターシステム）の取り組みや北見工業大学との連携等について説明があり、参加した期成会役員も積極的に質問するなど意見交換が行われました。



津別地区の視察状況



スマート農業の取り組み状況の意見交換

2) 東川町（株式会社東川農業振興公社）

◇ブロッコリー自動収穫機の視察

- ・農家からの委託を受けて実施しているブロッコリーの自動収穫機による収穫作業を視察しました。農業振興公社 牧農業振興センター長によると、公社所有台数は1台で、金額は1千万円弱だが、石の多い土地のため刃の破損により年2回ほど交換しているとのこと。また、製品率も5割ほどと課題もあるとのことでした。東川町全体では、まだまだ手作業による収穫が主流であり、例えば、20数人がバスで圃場へ移動して収穫をおこなう農家もあるとのことでした。



ブロッコリー自動収穫機の収穫状況

【平成 26 年度】

- 1 期 日 平成 26 年 8 月 6 日（水）～7 日（木）
- 2 視察先 今金町（今金南地区）
- 3 用 務 平成 26 年度国営農地再編整備事業促進期成会視察研修
- 4 参加者 期成会員 19 名

1) 国営緊急農地再編整備事業「今金南地区」

- ・受益面積 1,185 h a
- ・事業工期 平成 25 年度～34 年度予定

◇営農について

- ・町内水田の 95%は水田作付け（転作率 5%）となっており、水田以外に男爵いもをブランド化して今金だんしゃくとして売り出している。出荷先は関東方面。
- ・収穫機械等の機械利用組合は 5 つある。

◇整備計画について

- ・現状の圃場は 0.3～0.5ha で計画は 1.1ha を目指している。
- ・現況が小さいため、長辺を 300mに計画して、苗は両方の短辺（65～80m）に置いて作付けを計画している。
- ・地域的に泥炭であり、客土が必要な圃場には粘土の客土を行う計画である。
- ・今年の工事の発注は 5 月中旬、工事開始は 6 月中旬で 4 本工事を出している。
来年はもう少し早くに発注する予定である。
- ・地下水位制御システムを計画しており、3 年間の試験を行い期成会で整備を要望した経緯がある。
- ・暗渠排水も掘削と埋設、埋め戻しを一連で整備する工法で計画している。

◇促進費について

- ・今金南地区は、今年から制度化された促進費を利用して夏期工事を基本としている。
促進費は 6 万円/反となっている。

◇その他について

- ・今金南地区の他に東側と北側の 1,100ha で国営の再編事業が調査中となっている。



雨により車内での概要説明・意見交換



表土剥ぎの状況



水田の畦畔の施工状況



用水路の施工状況



附帯明渠の状況



完成圃場（左）と施工圃場（右）

【平成 25 年度】

- 1 期 日 平成 25 年 7 月 16 日（火）～17 日（水）
- 2 視察先 中富良野町（富良野盆地地区）、北広島市（換地センター）
- 3 用 務 平成 25 年度国営農地再編整備事業促進期成会視察研修
- 4 参加者 期成会員 21 名

1) 国営農地再編整備事業「富良野盆地地区」

- ・受益面積 2,217 h a
- ・受益戸数 287 戸
- ・事業工期 平成 20 年度～27 年度予定

◇事業の推進体制

- ・平成 20 年から、中富良野町から 7 名（うち 5 名職員、2 名嘱託）、富良野土地改良区から 2 名、J A ふらのから 1 名の出向および臨時職員 3 名の計 13 名体制により「中富良野町農業センター」を設置し、事業の推進および地区課題などの協議を行っている。
- ・トラブルなどは農業センターと地区の期成会で解決。

◇事業実施に向けた基本ルール、年次別施工区域順番の策定方法等

- ・地区のルール作りや施工順番は、各地区の期成会長会議にて決定。（年 4～5 回開催）
- ・大区画化などモデル的地区、用水系統の状況、過去の道営事業の古いところなどが優先順位を早くしている。

◇負担金の積立等について

- ・工種が固まったら、負担金を概算で算定し、負担金額のうち6割をJAに口座を開設して積み立てている。
- ・積立上限は10aあたり2,000円で年間2,700万円程度の積立金となっている。
- ・積立口座は1本で明細管理している。
- ・6月末に納付書を発行。
- ・法人などは積立していない人もいる。

◇休業補償など

- ・休耕補償は特に無いが、作物補償などについて農林水産省に要請中。
- ・転作の秋蒔き小麦収穫後に施工を行うなどで、収入を確保しつつ適期施工も実現している。ニセコ地区の場合は、条件が悪い地区が多いため収穫による収入も難しく適期施工も逃す可能性がある。

◇その他

- ・水利権なども変わってくるが、頭首工の工事などにあわせて、開発局のスタッフで見直し作業を行っている。
- ・客土材の購入単価の設定をしていなかったため、希望者の負担金の増加があり苦慮した。



中富良野町農業センター（ふらの農協中富良野支所内）での研修



国営農地再編整備事業で整備された富良野盆地の水田の集中管理孔システム

- ・水張から地下灌漑まで可能なため水田の有効活用が可能。暗渠配水管の洗浄も兼ねられるため、施設の長寿命化も期待できる。また、地下水をコントロールしているため、泥炭地特有の不陸も抑制できる。写真の圃場は、転作で秋まき小麦が実っており、地下灌漑実施中。

2) 北広島市 北海道土地改良事業団体連合会「換地センター」

◇換地の研修

- ・換地センターにて、センター長より換地のあらましについて説明を受けた。
- ニセコ地区は受益1,500haのうち、1,000haの換地区があり、ほとんどの受益者に関係があるため、

研修先に取り入れた。



換地センターでの研修

【平成 24 年度】

- 1 期 日 平成 24 年 7 月 11 日（水）～12 日（木）
- 2 視察先 鹿追町（中鹿追地区）
- 3 用 務 平成 24 年度国営農地再編整備事業促進期成会視察研修
- 4 参加者 期成会員 19 名

1) 国営農地再編整備事業「中鹿追地区」

- ・受益面積 2,077 h a
- ・受益戸数 72 戸
- ・事業工期 平成 21 年度～28 年度

◇地区の現状

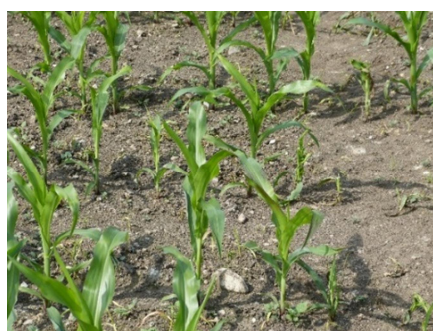
- ・本地域では、労働力不足等に対応し、コントラクターによる効率的な農作業を行い、農業経営の安定化を図ることとしているが、地区内のほ場は区画が不整形かつ排水不良や大量の石礫により生産性が低く、排水路や防風林で耕地が分断されるなど、経営耕地も分散していることから効率的な農業経営の確立に大きな支障となっている。

◇整備の状況

- ・石礫の多い畑から除礫で取り除いた石をそのままフトンかごに詰めて、整備した排水路の護岸に再利用している。



地区の概要説明



石礫の多いデントコーン畑



除礫した石を再利用した排水路整備

【平成 23 年度】

- 1 期 日 平成 23 年 7 月 6 日（水）～7 日（木）
- 2 視察先 士別市（上士別地区）、妹背牛町（妹背牛地区）
- 3 用 務 国営農地再編整備事業促進期成会視察研修
- 4 参加者 期成会員 22 名

1) 国営農地再編整備事業「上士別地区」

- ・受益面積 825ha
- ・受益個数 75 戸
- ・事業工期 平成 21 年度～28 年度
- ・工事概要 区画整理、農地造成、用水路工、道路工

◇地区の現状

- ・本地区は水田地帯だが、担い手不足は深刻で 800ha 以上ある農地を将来は 20 名ほどで耕作していかなければならない。今までの狭小・未整形・配水不良・老朽化した水路では、このまま営農を続けていくのは不可能で、この事業には全員が参加して生き残りをかけた事業として実施している。この事業により生産基盤の大型区画化、I T 農業などによる“超効率化”を図っており、生産技術が格段に進歩している地区である。
- ・現地では、旭川開発建設部および士別市の国営農地再編整備推進室の案内により、6ha 以上の水田大区画化を実施した農業法人“株式会社ファーム 6・6”代表取締役と意見交換した。



65 枚あった水田を 4 枚に大区画化。当地区の標準区画は 3.4ha だが、受益者の希望により 6.9ha×1 枚、6.6ha×2 枚、4.3ha×1 枚という北海道トップクラスの水田を実現。



代表取締役との意見交換（真ん中）



参加者の様子



給水設備が整っており 7 時間で水張可能

2) 国営農地再編整備事業「妹背牛地区」

- ・受益面積 1,002ha
- ・受益個数 110 戸
- ・事業工期 平成 20 年度～27 年度
- ・工事概要 区画整理、農地造成、用水路工、道路工

◇地区の現状と整備状況

- ・本地区は水田地帯だが、後継者不足の問題を農家自らが考え、いつ誰でも耕作しやすい水田を整備。標準区画 2.2ha の水田に地下灌漑を整備。直播を積極的に実施し、農作業の効率化を図っている。

◇事業の推進体制

- ・土地改良センターは、町の職員、土地改良区、農協職員が出向し、土地改良事業を推進。



妹背牛町土地改良センターでの研修の様子



事務局、担当者の説明



整備された水田



水田と排水路のようす



直播された稲。反当り 8～10 俵は収穫



水田周りにハーブを植え、匂いで害虫防止



研修の様子



地下灌漑により干ばつ知らず

【平成 22 年度】

- 1 期 日 平成 22 年 7 月 22 日（木）～23 日（金）
- 2 視察先 富良野市（富良野盆地地区）、由仁町（由仁地区）、南幌町（中樹林地区）
- 3 用 務 平成 22 年度国営農地再編整備事業促進期成会視察研修
- 4 参加者 期成会員 16 名

1) 国営農地再編整備事業「富良野盆地地区」

- ・受益面積 2,217ha（区画整理 1,943ha、農地造成 274ha）
- ・事業費 320 億円
- ・事業工期 平成 20 年度～27 年度
- ・工事概要 区画整理、農地造成、用排水路、道路

2) 国営農地再編整備事業「由仁地区」

- ・受益面積 1,100ha（区画整理 1,095ha、農地造成 5ha）
- ・事業費 150 億円
- ・事業工期 平成 16 年度～23 年度
- ・工事概要 区画整理、農地造成、用水路、道路

◇地区の現状

- ・札幌開発建設部より現地で説明があり、実際に耕作している農家の方に話を聞いた。
- ・だいたい 1 枚が 2ha の田んぼに整備したが、もっと大きくても良い。（風の影響はない）
- ・国営農地再編整備事業は、メリットだらけであり、水はけも良くなる。
- ・高齢で事業参加の意思がない農家には、地区で直接説得に行き、農地を売却してもらい事業で整備した。

3) 国営農地再編整備事業「中樹林地区」

- ・受益面積 区画整理 758ha、農地造成 5ha
- ・事業費 143 億円
- ・事業工期 平成 12 年度～19 年度

◇地区の現状

- ・南幌町農業農村整備事業推進本部による現地での説明と、農業生産法人(有)フローア代表取締役社長からの説明を受けた。
- ・農業生産法人にするまでは、とても大変である。国営事業をやったからといって法人化できるものではなく、J A と一体となって大変な努力をして何とかできた。